

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価各課総括表・2次評価表

2次評価者

教育部博物館

教育部長 岩橋 平武

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自己	評価内容	方向性	内容
31-001	文化財保護事業	なし	A	全国山・鉾・屋台保存連合会の「祭屋台等製作修理技術者研修会(以下「研修会」)」を半田市で開催するにあたり、研修会亀崎大会実行委員会に参画したことで全国の祭礼保存会及び行政に半田の祭礼文化等のPRを行うことができた。また、「下半田祭礼行事」、「乙川祭礼行事」の無形民俗文化財指定を始め、文化財指定候補物件の調査及び審議を適切に行うとともに、「文化財よもやま話」や「文化財見学会」の開講、文化財の保存伝承への補助等、様々な保護事業を着実に推進した結果、文化財の保護が図られるとともに、市民が文化財に親しみ、理解を深める場を提供することができた。今後も文化財に親しむ機会を提供していく必要がある。	改善 推進	今後も市内の文化財指定候補の調査・検討を進めるとともに、保存伝承に要する経費への補助事業を継続的に実施していく。また、博物館を拠点とした文化財に関する展示や講座、情報発信を通じ、文化財保護の啓発を積極的に進めていく。
31-002	旧中埜家住宅保存管理事業	なし	A	建物への理解を深め、適切に後世へ継承すべき貴重な文化財であることを伝えるため、11月に第2回特別公開を開催し、文化財への親しみを育むとともに、市民の文化財保護意識の向上を図った。また、保存活用検討委員会を設置し、この先の重要文化財建造物として適切な保存、活用及び整備のあり方について検討を行った。今後は、保存活用方法の決定と建物を後世へ継承するための適時適切な保存修理が必要である。	改善 推進	今後も建物の保存管理、特別公開を始めとした公開活用事業を実施する。また、これらと並行して、保存活用検討委員会を開催し、この先の重要文化財建造物として適切な保存、整備及び活用のあり方について検討を進め、基本方針を策定する。
31-004	文化財保存修理等補助事業	あり	B	文化財を後世へ継承するため、文化財所有者に修理計画を照会したうえで、緊急性、必要性を考慮したヒアリング、現地調査等を実施し、補助事業の採択及び計画的な保存修理を行った。この結果、平成30年度は、山車関係7件への補助を行い、市内文化財の後世への保存・継承を図ることができた。今後も継続的に実施していく必要がある。	改善 推進	貴重な市民の財産でもある文化財を保護し、次世代へ保存・継承していくため、修理や環境整備の経費支援に加えて、博物館の専門性を活かした保存管理手法等の指導助言を行いながら、事業を計画的・定量的・持続的に進めていく。
31-005	博物館一般事務	なし	B	企画展「知多半島の里山」期間中の里山に関する講演会の開催や、「文化財よもやま話」の実施回数を全5回から7回に増やしたこと、博物館講座「ピカピカ光る！泥だんごを作ろう」、「親子昆虫観察ツアー」、「カプセル砂絵を作ろう！」など親子で楽しめる講座を新たに開催したことで、幅広い年齢層への博物館のPRができ、昨年度を100人以上上回る参加実績となった。また、常設展示室Ⅲの一部改修や、山車の展示解説について一部多言語化にも取り組んだ。今後も参加者が興味をもってもらえるような魅力的な講座を開催していく必要がある。	改善 推進	幅広い年齢層の方に興味関心を持ってもらえるよう、学芸員の専門分野を活かした講座や企画展に合わせた講座・関連イベントを実施することで、さらなる入館者数の増加に努める。また、常設展示室の展示や解説等を改善し内容を充実させることで、さらに魅力ある博物館づくりを推進していく。

整理No	事務事業名	3か 年実 施計 画	事業の評価・課題		今後の事業の方向性	
			自 己	評価内容	方向性	内容
31-006	企画展開催事業	あり	C	企画展として、「知多半島の里山」を始め、「鬼頭鍋三郎展」、館蔵品展「書」・「番付は語る」などを開催することで、地域の自然や歴史、美術品などを多くの市民に紹介することができた。なかでも、夏の企画展期間中に植物や昆虫の生態展示を行ったことで、多くの子供たちが来館するなど賑わいをみることができた。また、図書館利用者への周知のため、ミニ展示や講演会などの関連イベントを実施するなど創意工夫に努めた。今年は企画展開催日数が少なかったため、目標を上回ることができなかったが、一日あたりの入館者数では、284.8人と、H27(275人)、H28(271人)よりも増加することができた。今後も低コストで多くの来館を促す魅力ある展示を行っていく必要がある。	改善 推進	身近なものから高度な専門性を有するものまで、テーマに合わせた客層想定を行い、幅広い年代の方への発見・学びの機会を創出していく。また、展示に併せて講演会などのイベントを開催することにより、博物館への関心を高め、生涯学習の推進と来館者の増加を図る。
31-007	図書館・博物館管理運営事業	なし	B	改正建築基準法の施行により、図書館・博物館が特定建築物等の定期報告対象施設となったことを受け、平成30年度は、法令に定める各種調査等を初めて実施した。また、予定していたエレベーター部品や誘導灯等の修繕に加え、利用者の安全に関わる外構や空調等の修繕、建物の躯体に影響を及ぼす恐れのある箇所の補修等、緊急的な修繕に適切に対応した。 現施設は、昭和59年に開館しており、建物及び設備の老朽化が進行していることから、今後も修繕を計画的に実施していくが、予測不能な故障等が各所に発生する状態であり、その都度適切な対応が求められる。	改善 推進	図書館・博物館は、地域文化の振興や市民の学習活動支援にとって重要な社会教育施設であり、利用者の安全・安心と郷土の貴重な収蔵資料の保管環境の確保が必要である。今後も、施設の適切な管理、運営のため、特定建築物の定期調査等で指摘を受けた箇所の改修を始め、施設、設備の各種更新、修繕等を適切に実施していく。
31-008	図書館・博物館施設等改修事業	あり	B	平成30年度は、閉架書庫上等の防水シート張替工事、収蔵庫等ハロン設備更新工事、非常用照明直流電源装置更新工事等を行った。 現施設は昭和59年に開館していることから、建物及び設備の老朽化が進行している。必要な改修を計画的に要望し、必要な箇所から改修しているものの、修理必要箇所数は年々増えており、費用も高額である。	改善 推進	図書館・博物館は、地域文化の振興や市民の学習活動支援にとって重要な社会教育施設である。今後も適切に運営できるよう、必要な施設等改修を行っていく。利用者の安全・安心と、郷土の貴重な財産である収蔵資料の保管環境を確保するとともに、施設の維持及び延命化を図っていく。
31-009	博物館展示等整備事業(H30から新規)	あり	A	展示室の整備(資料の固定、監視カメラの設置、天井照明のLED化、映像コーナー・解説パネルの設置)については国の補助を受けて完了し、貴重な資料を保護するとともに、より分かりやすい展示にすることができた。今後は、団体見学時などの展示解説で有効に活用するとともに、より子ども向けの解説やワークシートの作成など、ソフト面での整備を進めていく必要がある。	改善 推進	ソフト面での整備を進めていくにあたり、平成31年度に実施する「半田市紹介映像ソフト制作」において、整備を行った展示室を活用し、鑑賞者(主に市内全小学校3年生)が半田の酢醸造について分かりやすく学べる内容にする。
課等長	1次評価(30年度の総括評価)					
B	文化財の保護に関する各事業では、全国山・鉾・屋台保存連合会の、「祭屋台等製作修理技術者研修会亀崎大会」の開催に際し、研修会の実行委員会に参画したことで全国に対し、半田市の誇る山車文化等を広くPRすることができた。さらに、「乙川祭礼行事」・「下半田祭礼行事」の無形民俗文化財への指定を始め、文化財の保存修理への補助、旧中笠家住宅の特別公開等、文化財の保存伝承につながる多くの事業を実施することができた。また、博物館の各事業では、学芸員の専門分野を活かし、市民が参加しやすい講座や企画展を多く開催したことで来館者は95,961人と目標値(98,000人)には及ばなかったものの、28年度を大きく上回る(28年度:90,400人)ことができた。施設の維持管理に関する事業では、施設の長寿命化を図るべく、屋根の防水工事を始めとする各種工事・修繕等を適切に実施することができた。 今後も、市民が誇りをもって郷土の自然、歴史、文化を大切に育んでもらえるよう、人類の叡智、遺産等の伝承に務める。					
部等長	2次評価(30年度の総括評価並びに今後の方針及び指示事項)					
B	平成30年度は、前年度に「はんだ山車まつり」の関連展示を実施したということもあり、来場者数は及ばなかったものの(29年度実績値:104,913人)、前年度の指示事項をしっかりと意識し、親しまれる博物館として、学芸員の専門分野を活かした各種講座や分かりやすい展示・解説を行ったことで、昨年度に迫る来場者数を記録することができた。今後も、博物館としての専門性を更に高めるとともに、人類の叡智、遺産等の伝承に務め、市民が誇りをもって郷土の自然、歴史、文化を大切に育んでもらえるよう意識の醸成に努めることが必要である。					